

セタシジミの肥育親貝放流区画周辺における試験操業結果

井戸本純一・草野 充・磯田能年（（公財）滋賀県水産振興協会）

1. 目的

西の湖で肥育したセタシジミ親貝の放流が実際の漁業資源に及ぼす効果を検証するため、2014年に最初の放流を行った沖島試験区で漁業者による試験操業を実施した。

2. 方法

2014年6月に合計58kgの親貝を入れた浅型コンテナをポールで囲った区画内（30m×30m）に設置した。その後は2015年に243kg、2016年に285kg、2018年に160kgの親貝をそれぞれ5月に区画内へ直播き放流した。

試験操業は2019年2月に9隻で2日間実施し、放流区画の周辺は安全のために2隻が片舷のみの漁具で、残りは普段の漁場内で通常通りの操業を行った。各漁船にはGPSロガーを配布し、曳網場所と操業時間を特定した。

3. 結果

放流区画周辺（試験区）と通常の漁場（対照区）における漁獲成績を表1に示した。1漁具1時間あたりの漁獲量（CPUE）は、1日目は対照区の2.4kgに対して試験区は8.0kg、2日目は天候悪化のために短縮されたもののそれぞれ2.6kgおよび10.1kgと前日上回り、試験区が平均で3.6倍と高かった。

試験区における曳網場所は、放流区画の北から北東方向に広がったが、とくに北北東へ

400～500m離れた場所に集中しており、放流した親貝に由来する資源が湖流や波浪によって到達している可能性が考えられた。

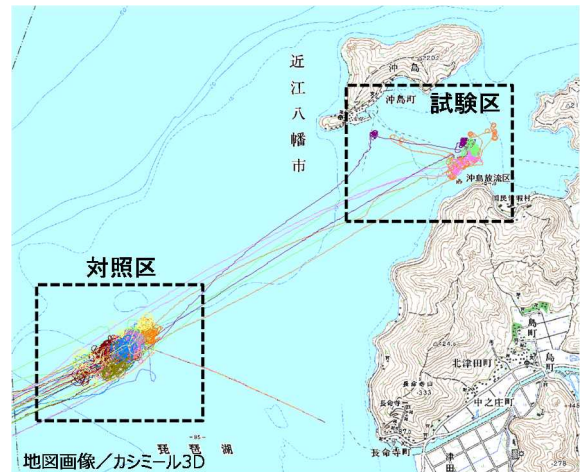


図1 沖島周辺における試験操業水域図。

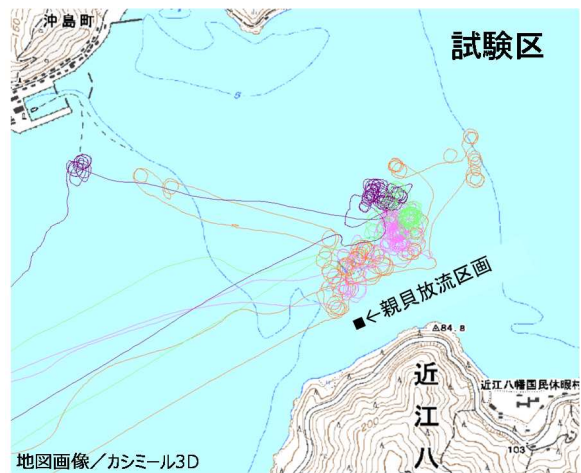


図2 親貝放流区画周辺における漁船の軌跡。

表1 親貝放流区画周辺（試験区）と漁場（対照区）における漁獲成績。

調査日	漁場	操業隻数	漁具数	のべ操業時間数	漁獲量合計 (kg)	1漁具1時間あたりの漁獲量 (kg)
1日目 (2019年2月27日)	試験区	2	2	5.02	40.0	8.0
	対照区	7	14	19.33	92.9	2.4
	CPUE比（試験区／対照区）					
2日目 (2019年2月28日)	試験区	2	2	2.83	28.6	10.1
	対照区	7	14	10.60	54.9	2.6
	CPUE比（試験区／対照区）					

本研究は平成30年度二枚貝資源緊急増殖対策事業（水産庁）を実施する（公財）滋賀県水産振興協会と共同で行った。